2022年3月期
（2021年度）
決算ハイライト

埼玉りそな銀行

2022年5月12日

2022年3月期決算及び2023年3月期業績目標の概要

■ **当期純利益：142億円**

前期比△120億円（△45.8%）、通期目標*1比△63億円

■ **実質業務純益 ： 255億円** 前期比△98億円（△27.9%）

● **業務粗利益 ： 1,014億円** 前期比△91億円（△8.3%）

➢ 国内預貸金利益：前期比△18億円

貸出金平残：＋2.8%、貸出金利回り：△0.04%

貸出金利回りの低下幅は縮小

➢ フィー収益：前期比＋17億円、フィー収益比率：27.1%

12期連続増益、過去最高を更新

➢ 債券関係損益（先物込）：前期比△117億円

有価証券のポートフォリオ健全化を実施 △177億円

● **経費 ： △758億円** 前期比△7億円

通期業績目標を達成 ： 17億円改善

■ **株式等関係損益 ： 30億円** 前期比△118億円

前期のTOBによる大口売却益等の剥落

■ **与信費用 ： △55億円** 前期比＋34億円改善

➢ **不良債権比率は低位で推移：1.10%**

➢ **自己資本比率*4は上昇：15.42%**

□ **2023年3月期業績目標**

業務粗利益：1,115億円、当期純利益：225億円

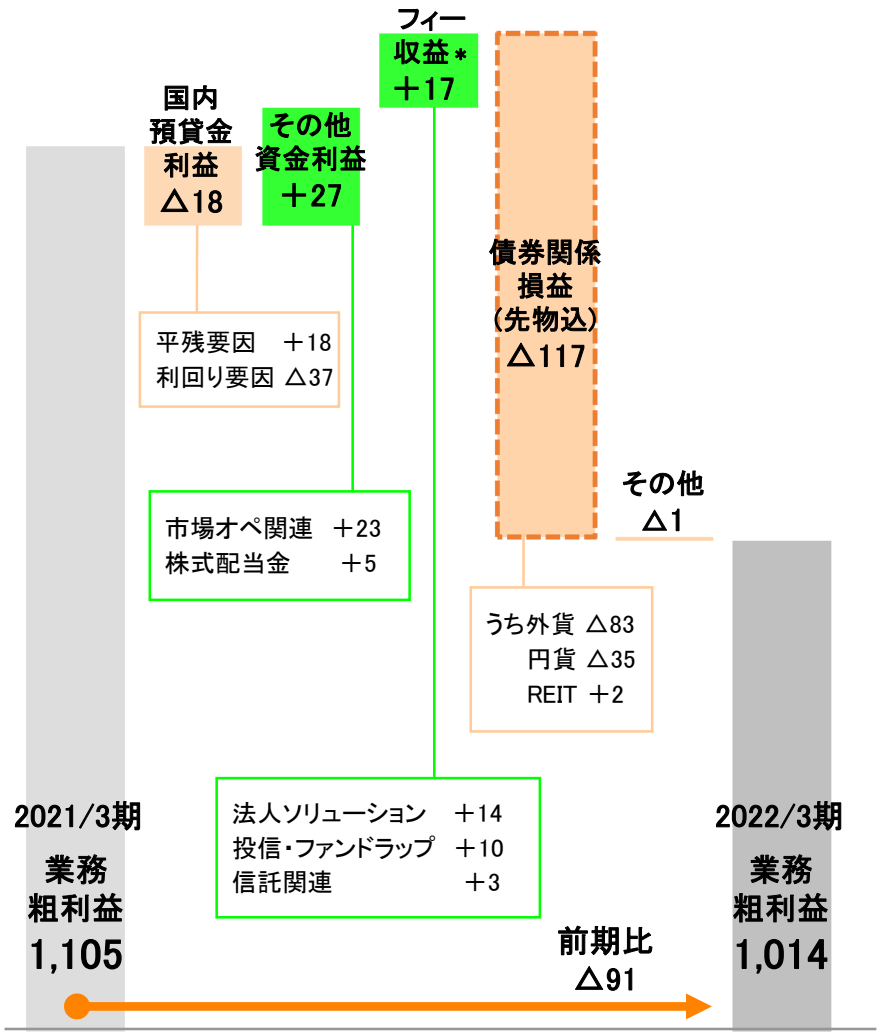
連結（億円）		2022/3期	前期比	増減率	通期業績目標*1比	2023/3期目標
業務粗利益	(1)	**1,014**	**△ 91**	**△8.3%**	**△ 126**	**1,115**
資金利益	(2)	841	＋9			
うち国内預貸金利益*2	(3)	683	△ 18			
うち投資信託解約損益	(4)	－	＋0			
フィー収益	(5)	275	＋17			
フィー収益比率	(6)	27.1%	＋3.8%			
信託報酬	(7)	0	＋0			
役務取引等利益	(8)	274	＋17			
その他業務利益	(9)	△ 102	△ 118			
うち債券関係損益（先物込）	(10)	△ 118	△ 117			
経費	(11)	△ 758	△ 7	△0.9%	＋17	△ 740
経費率	(12)	74.8%	＋6.8%			
実質業務純益	(13)	**255**	**△ 98**	**△27.9%**	**△ 110**	**375**
コア業務純益（除く投資信託解約損益）*3	(14)	**366**	**△ 4**	**△1.1%**		
株式等関係損益(先物込)	(15)	30	△ 118		△ 5	35
与信費用	(16)	△ 55	＋34		＋10	△ 60
その他の臨時・特別損益	(17)	△ 31	＋6			
税引前当期純利益	(18)	**198**	**△ 177**	**△47.1%**	**△ 92**	**320**
税金費用ほか	(19)	△ 55	＋56			
当期純利益	(20)	**142**	**△ 120**	**△45.8%**	**△ 63**	**225**

*1. 2021年11月9日公表業績目標 *2. 国内預貸金利益：譲渡性預金を含む *3. 実質業務純益−投資信託解約損益−債券関係損益（現物） *4.単体ベース

期間損益の前期比増減要因

業務粗利益

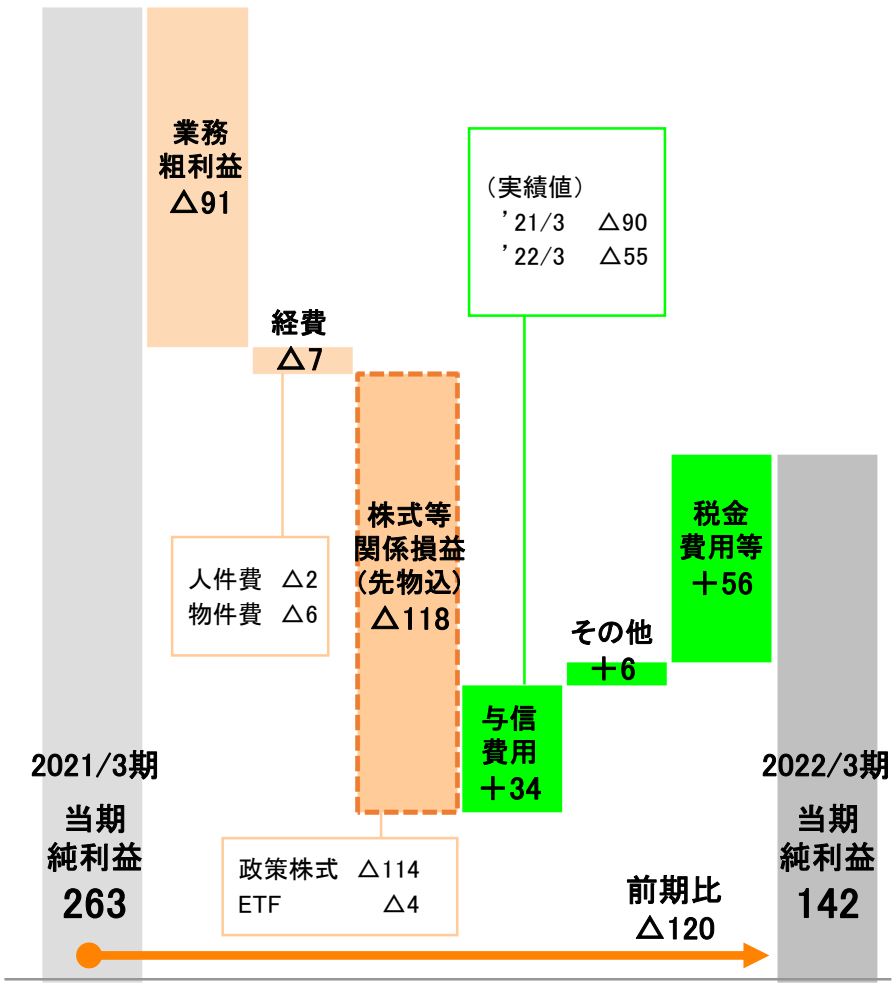
（億円）



＊信託報酬＋役務取引等利益

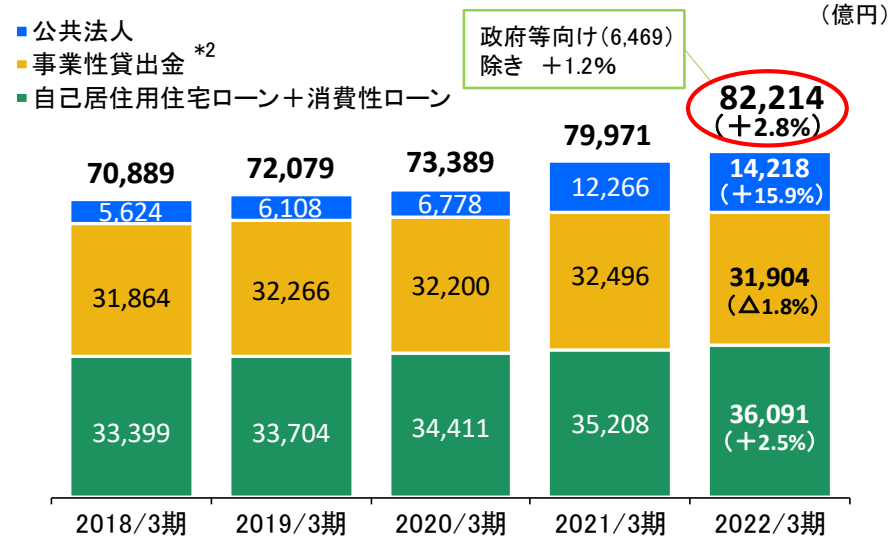
当期純利益

（億円）



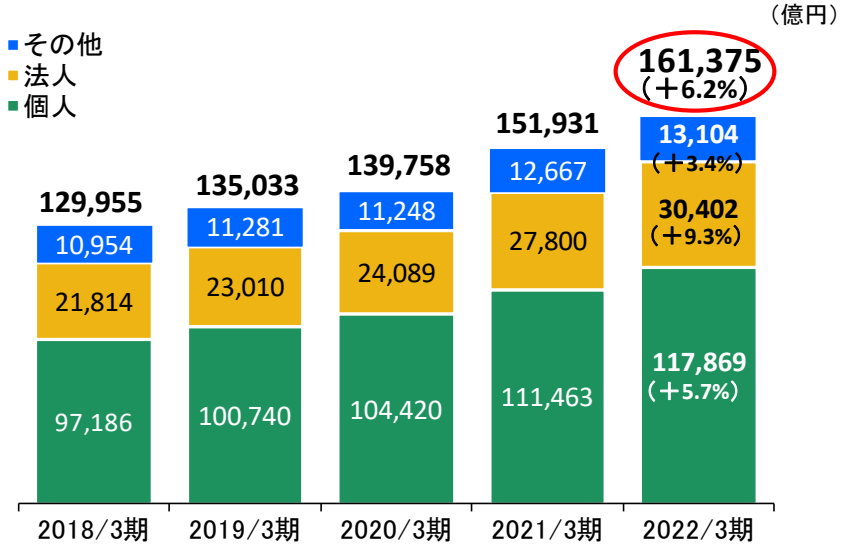
預貸金残高・利回り

貸出金平残（全店）



*1. 内訳は社内管理計数
*2. 中堅・中小企業、個人事業主、アパートマンションローン等 *3. ( )内は前期比増減率

預金平残（全店）



*1. 内訳は社内管理計数 *2. 譲渡性預金を含む *3. ( )内は前期比増減率

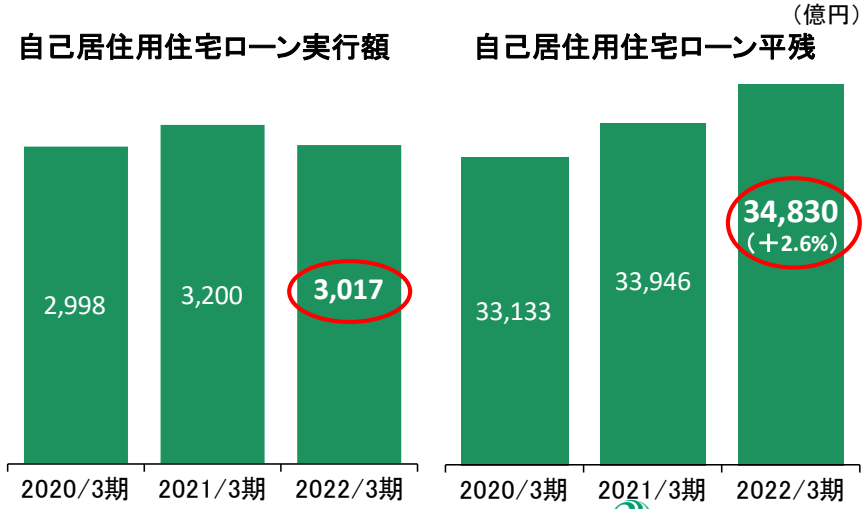
貸出金利回り（国内）

➢ **貸出金利回りの低下幅は前期比縮小**

（%）	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
貸出金利回り	1.12	1.05	0.99	0.89	0.84
前期比	△ 0.09	△ 0.07	△ 0.06	△ 0.10	△ 0.04
政府等向け除き	1.12	1.05	0.99	0.95	0.91
前期比	△ 0.09	△ 0.07	△ 0.05	△ 0.04	△ 0.03

＊政府等向けは2020/3期から取扱開始

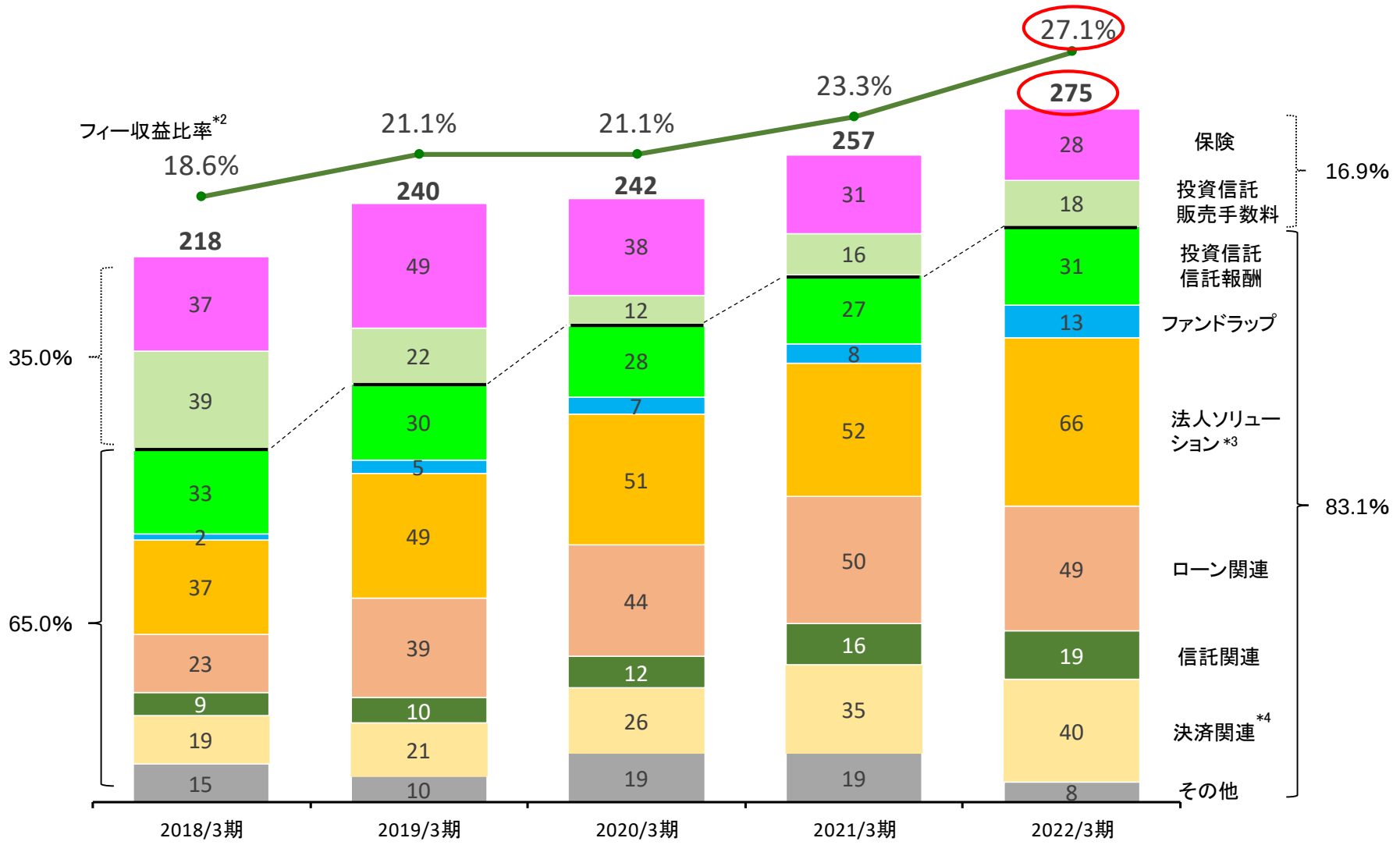
自己居住用住宅ローン実行額・平残



＊( )内は前期比増減率

フィー収益*1

- フィー収益は12期連続の増加、年度における過去最高を更新、フィー収益比率は27.1%に伸長
- ストック型フィー収益の割合は、収益構造改革の進展により上昇

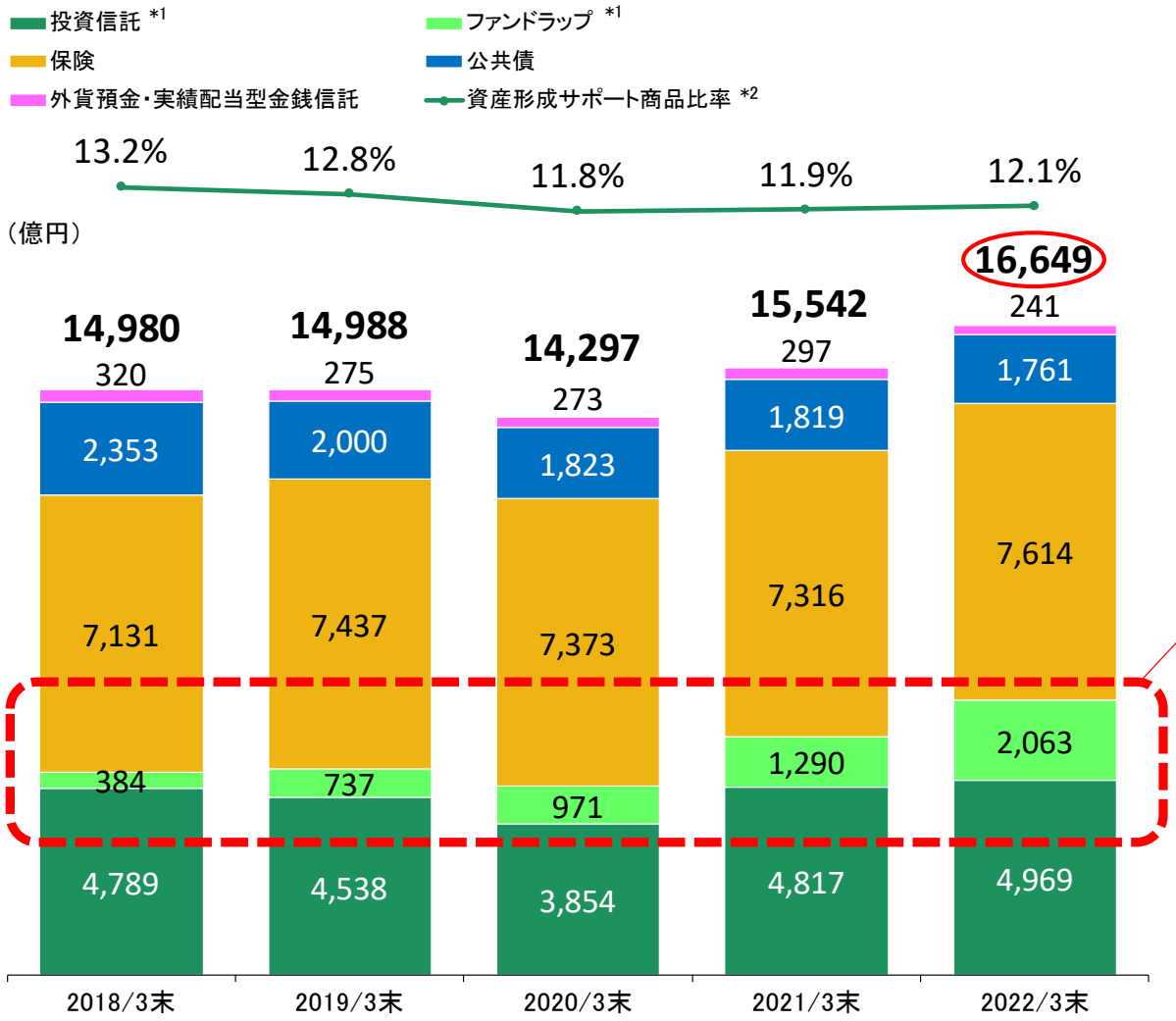


*1.役務取引等利益＋信託報酬　*2.（役務取引等利益＋信託報酬）÷業務粗利益　*3. M&A、私募債、シ・ローン／コミット／コベナンツ／一般貸出関連、ビジネスマッチング
*4. EB、VISAデビ、りそなキャッシュレス・プラットフォーム　*5.内訳は社内管理計数

資産形成サポートビジネス

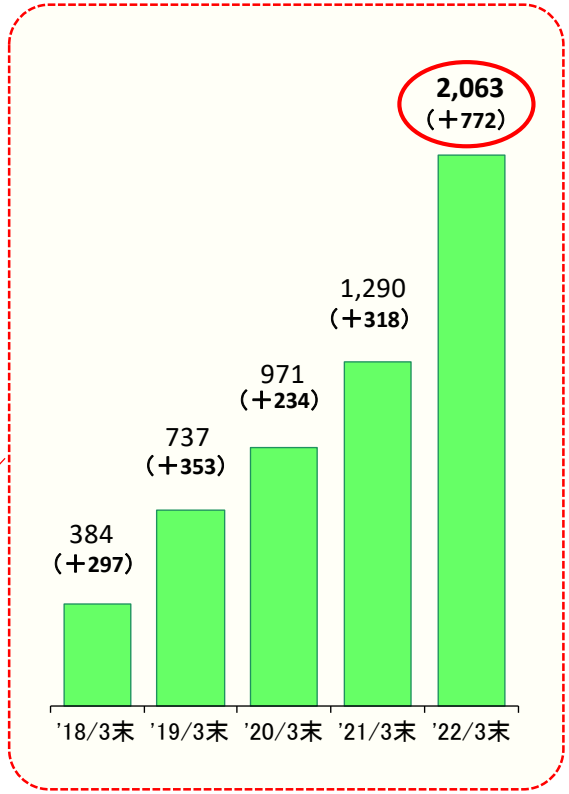
個人向け資産形成サポート商品残高

- ファンドラップが牽引し、個人向け資産形成サポート商品残高は増加



【ファンドラップ残高】

- ファンドラップ残高は2,000億円を突破
- 年間増加額は過去最高を更新



＊'17/2～ 取扱開始
＊法人込残高 2,282億円
＊( )内は前期比増減額

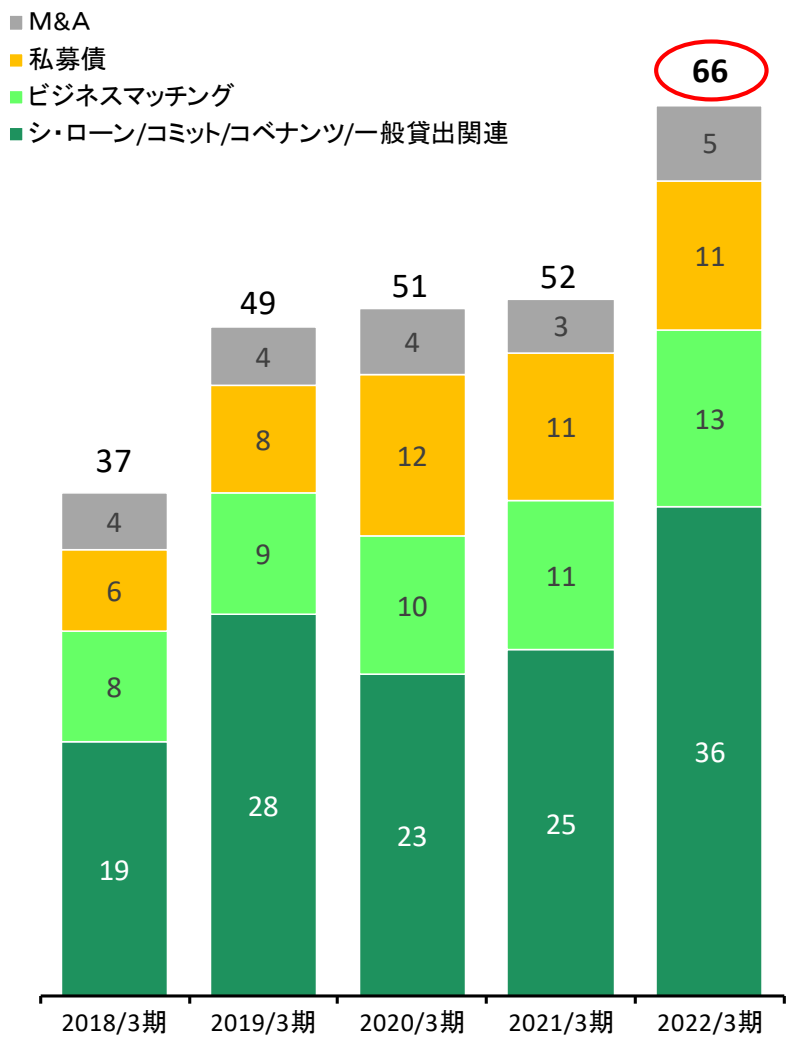
*1. 時価ベース残高
*2. 資産形成サポート商品比率＝個人向け資産形成サポート商品残高 ／(個人向け資産形成サポート商品残高＋円貨個人預金)
*3. 内訳は社内管理計数

法人ソリューション、信託ビジネス

法人ソリューション収益

（億円）

➢ お客さまのこまりごと起点の取組みを通じて、過去最高を更新

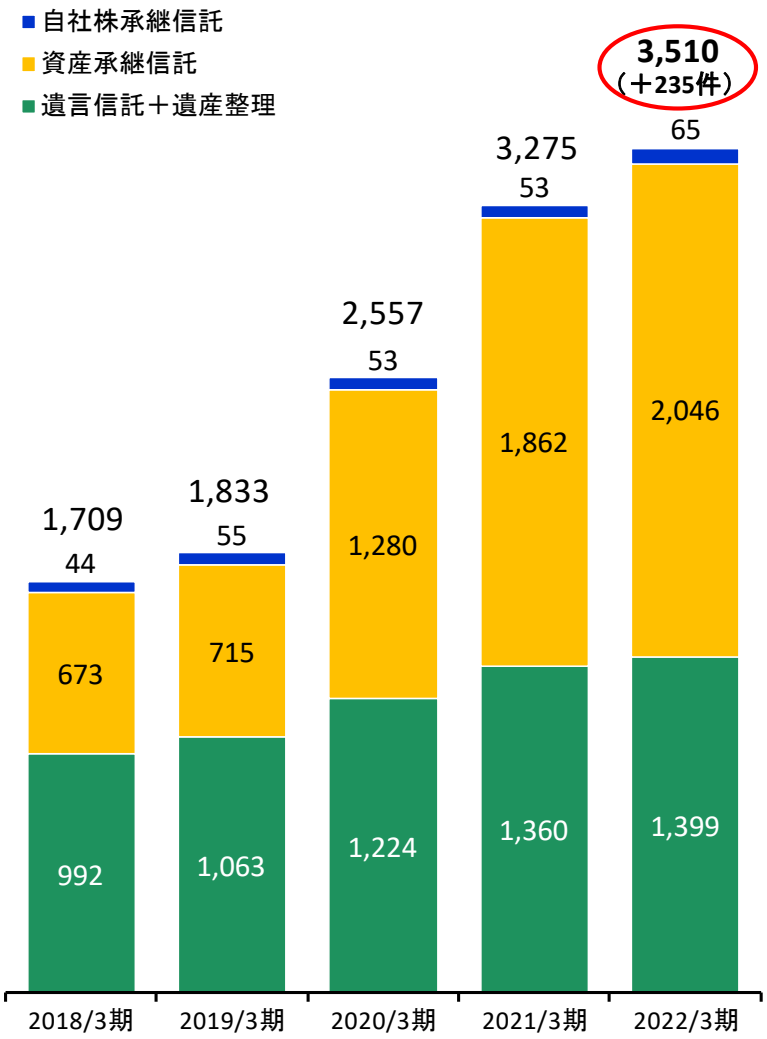


＊内訳は社内管理計数

信託ビジネス（新規利用件数）

（件）

➢ 承継ニーズの高まりを捉え、過去最高を更新



＊( )内は前期比増加数

与信費用、不良債権

与信費用

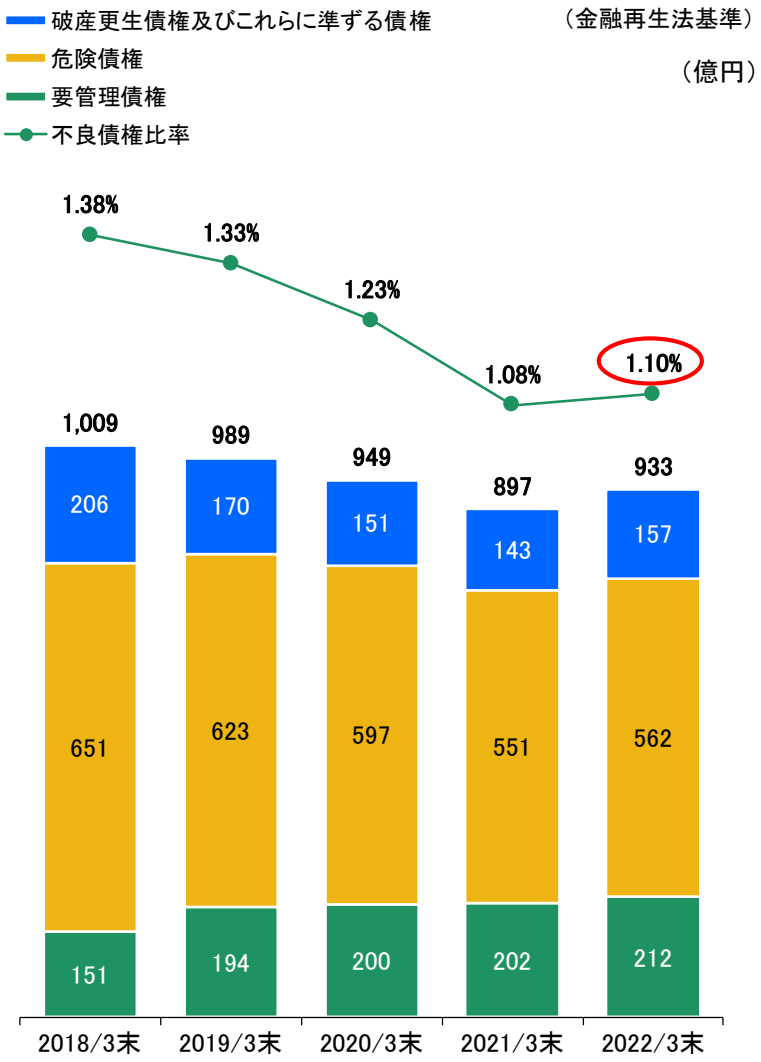
➢ 一部大口先で新規発生あるも、業績目標を10億円下回る

（億円）	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	目標*1比	2023/3期 目標
与信費用 (1)	△44	△90	△55	＋10	△60
一般貸倒引当金 (2)	△9	△39	12		
個別貸倒引当金等 (3)	△35	△50	△68		
新規発生 (4)	△96	△58	△84		
回収・上方遷移等 (5)	61	8	16		
					(bps)
与信費用比率*3 (6)	△ 5.9	△ 11.2	△ 6.6	+1.1	△ 7.1

*1. 2021年11月9日公表業績目標
*2.正の値は戻入を表す
*3.与信費用／金融再生法基準与信残高（期首・期末平均）

不良債権残高・比率の推移

➢ 不良債権比率は引き続き低水準で推移



有価証券、自己資本比率

有価証券

（億円）		2020/3末	2021/3末	2022/3末	評価差額
その他有価証券*1	(1)	6,011	10,634	11,124	667
株式	(2)	581	548	533	816
債券	(3)	3,846	6,876	8,959	△ 98
国債	(4)	1,557	2,914	4,371	△ 71
（デュレーション）*2	(5)	12.6年	13.2年	6.9年	－
(BPV)	(6)	△ 1.9	△ 3.8	△ 4.0	－
地方債・社債	(7)	2,288	3,961	4,587	△ 27
その他	(8)	1,583	3,210	1,631	△ 50
外国債券	(9)	968	1,367	601	△ 29
（デュレーション）	(10)	2.3年	6.6年	6.8年	－
(BPV)	(11)	0.0	△ 0.8	△ 0.3	－
国内投資信託	(12)	615	1,842	1,030	△ 21
（評価差額）	(13)	784	884	667	
満期保有債券*3	(14)	7,652	7,331	8,474	△ 11
国債	(15)	667	－	－	－
（評価差額）	(16)	65	42	△ 11	

*1. 取得原価、時価のある有価証券のみを対象として記載
*2. 変動利付国債のデュレーションはゼロで計算
*3. BS計上額、時価のある有価証券のみを対象として記載

自己資本比率（国内基準）

➢ 自己資本比率は地域金融機関として十分な水準を維持

（億円）		2021/3末	2022/3末	増減
自己資本比率	(1)	**14.45%**	**15.42%**	**＋0.97%**
自己資本の額 (3)－(6)	(2)	3,730	3,824	＋93
コア資本に係る基礎項目の額	(3)	3,829	3,902	＋72
うち普通株式に係る株主資本の額	(4)	3,583	3,623	＋40
うち劣後ローン	(5)	245	245	－
コア資本に係る調整項目の額	(6)	99	77	△21
リスク・アセット等	(7)	25,801	24,799	△1,002
信用リスク・アセットの額	(8)	20,994	20,290	△703
マーケット・リスク相当額÷8%	(9)	145	80	△64
オペレーショナル・リスク相当額÷8%	(10)	1,973	1,977	＋4
フロア調整額	(11)	2,688	2,450	△238

＊2021年10月に連結子会社：株式会社地域デザインラボさいたまを設立したことに伴う
連結自己資本比率は、15.28%

中期経営計画の進捗

お客さまのこまりごと、社会課題を起点に、従来の常識や枠組みにとらわれることなく、新しい発想、幅広いつながりが育む様々な「共鳴（レゾナンス）」を通じ、持続可能な地域社会づくりに貢献してまいります

Ⅰ.豊かな未来づくりをサポート

➢ 将来に向けた資産形成のサポートや拡大する承継ニーズへのソリューションを提供

ファンドラップ残高

2,000億円突破（前年同月比 **1.6倍**）

承継信託機能新規獲得件数*

3,510件（前期比 **+235件**）

＊遺言信託、遺産整理、自社株承継信託、資産承継信託

Ⅱ.社会変化がもたらすベネフィットの提供

➢ コロナ禍で高まる非対面・非接触ニーズにも応える、利便性の高い新たなデジタルサービスを提供

グループアプリセットアップ件数

100万件突破（前年同月比 **1.3倍**）

りそなキャッシュレスプラットフォーム取扱高

1,916億円（前期比 **1.3倍**）

Ⅲ.「地域×SDGs」推進

➢ SDGsを原動力とした地域課題解決ビジネスを推進

～「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向けて～

■ SDGs私募債~埼玉150周年記念ファンド~

・埼玉県のSDGs重点施策と連携する基金を寄付先とする新ファンドの取扱いを開始
・同様の私募債とSaitamaDGs（投資信託）により、累計8,000万円超を埼玉県と県の基金へ寄付

■ 認知症の共生と予防に取り組むエコシステム構築

・自治体や外部企業と連携し、オンラインセミナーを通じた認知症への理解浸透や予防等に向けた啓発活動を展開
・認知機能低下に備える商品・サービスをリリース
　ファンドラップ頼れる安心サービス（2022年1月～）
　頼れる安心特約付き定期預金（2022年2月～）

■ 教育ローン学生プラン（2021年12月～）

・埼玉県の医療人材不足解消を後押しするため、医療系国家資格取得のための教育関連費用を将来の見込年収で融資する、全国の銀行初の商品を取扱い開始

■ フードドライブ活動*

・従業員発の活動が広がり、2021年度は27拠点で5,000点を超える食料品等を寄贈
＊家庭で余っている食料品等を持ち寄り、地域の福祉団体等へ寄贈する活動

中期経営計画の進捗

Ⅲ.「地域×SDGs」推進 ～（株）地域デザインラボさいたま（愛称：ラボたま）の活動

- ”ラボたま”設立以降、お客さまや地域に「広く・深く・長く」伴走支援すべく活動を行ってまいりました
- 今後も地域からの”期待”を”信頼”につなげていけるよう、更なる地域との価値共創を目指します

地域課題解決事業

オンリーワンの地域の魅力を発掘・創出・プロモーションし、それぞれの取組みの自走化や伴走支援を通じて、地域の自立的好循環を創出することで、地域課題解決を推進

いっしょに成長 ラボたま 地域デザインラボさいたま

2021年度 主な実績

まちづくりコンサルティング事業	◆「飯能地区河川利活用検討業務」の受託 ◆「埼玉県済生会加須病院を核とした新たなまちづくりコンセプト策定業務」の受託
産業創出支援事業	◆ 官民連携Challenge　Pitch開催　（3自治体発表、5社7件引合せ）
企業版ふるさと納税事業	◆ 行政・企業宛セミナー開催（県内44団体参加） →越谷市より「企業版ふるさと納税PR等支援業務」受託
個人版ふるさと納税事業	◆「ベルーナ」との個人版ふるさと納税業務連携基本協定締結
その他	◆ 大宮駅周辺グリーンインフラ公民連携プラットフォーム運営支援/事務局 ◆「manordaいわて」との包括連携協定締結 ◆ 社内ビジネスコンテスト開催　（計35件応募、4件選抜）

【日々の活動配信中】

HP　Facebook

＜埼玉県済生会加須病院のイメージ図＞　出展：加須市HPより抜粋

＜ベルーナとの連携協定締結時＞

地域経済の活性化に向けた取組み

地域金融円滑化の取組みやお客さまの事業構造転換の後押し等さまざまなこまりごと解決を通じて、「埼玉県の皆さまに信頼され、地元埼玉とともに発展する銀行」の実現を目指します

こまりごと解決件数：約1万9千件

地域金融円滑化

本業支援

BM支援件数
4,756件（前期比　1.2倍）※過去最高

人財ニーズ案件化件数
283件（前期比　4.0倍）　※過去最高

補助金支援等

事業再構築補助金
累計受付　294件

支援金確認手続
累計2,094件

経営改善・再生支援

支援先数
1,022先（前期比　1.1倍）

ソリューション提供率
59%（前期比　1.5倍）

融資取組額
986億円（前期比　1.7倍）

財務基盤強化・資本支援

資本増強支援　累計 47億円

事業構造転換

DX支援

RCP導入店舗数
4,541店（前期比＋200店）　※過去最高

地公体におけるRCP新規導入　8団体

SX支援

SDGs/SXアンケート　約16千社

SX関連融資　1,306億円

M&A支援

支援件数　247件（前期比　1.3倍）
※過去最高

2022年度の新たな取組み

県内のスタートアップ企業の成長支援を強化

- **「埼玉りそなリンクアップローン」取扱い開始**（2022年4月～）
  埼玉県信用保証協会と協調し、スタートアップ企業の資金ニーズへ対応
- **「創業応援ファンド」新設**（2022年5月～）
  スタートアップ企業の資本調達ニーズへ対応

新たなグループ機能も活用し、DX支援を加速

- **「りそなデジタルハブ」株式会社の設立**（2022年4月）
  お客さまの多様なDXニーズへ対応するためコンサルファーム、ITベンダーと共同出資し設立
- **合弁会社「FinBASE」の設立**（2022年4月）
  金融デジタルプラットフォームの提供を目指し新会社設立

（ご参考）貸出金・預金末残の推移

（億円・%）		2020/3末	2020/9末	2021/3末	2021/9末	2022/3末	2021/9末比	2021/3末比	増減率
貸出金	(1)	75,772	80,652	81,692	82,308	82,941	＋633	＋1,248	＋1.5%
（政府等向け除き）	(2)	(73,442)	(74,920)	(75,763)	(75,728)	(76,006)	(＋278)	(＋243)	(＋0.3%)
中小企業等向け貸出金	(3)	63,148	64,002	64,553	64,194	64,335	＋140	△218	△0.3%
同比率	(4)	83.3%	79.3%	79.0%	77.9%	77.5%	△0.4%	△1.4%	
消費者ローン	(5)	44,129	44,261	44,627	44,858	45,000	＋142	＋373	＋0.8%
自己居住用住宅ローン	(6)	33,555	33,937	34,501	34,862	35,176	＋313	＋675	＋1.9%
アパートマンションローン	(7)	9,288	9,061	8,867	8,731	8,550	△181	△317	△3.5%
消費性ローン	(8)	1,285	1,261	1,258	1,264	1,273	＋9	＋15	＋1.2%
中小企業*1	(9)	19,018	19,740	19,926	19,336	19,334	△2	△592	△2.9%
埼玉県内貸出金	(10)	71,959	73,262	74,115	74,126	74,270	＋143	＋154	＋0.2%
埼玉県内シェア*2	(11)	44.3%	44.4%	44.5%	44.6%	44.4%	△0.2%	△0.1%	
預金*3	(12)	144,126	152,225	156,725	161,127	167,174	＋6,046	＋10,448	＋6.6%
流動性預金*4	(13)	104,723	114,071	118,856	120,966	128,444	＋7,478	＋9,588	＋8.0%
定期・譲渡性預金等	(14)	39,403	38,153	37,869	40,161	38,729	△1,431	＋860	＋2.2%
国内個人預金	(15)	106,250	111,669	114,741	117,704	120,455	＋2,751	＋5,713	＋4.9%
同比率	(16)	73.7%	73.3%	73.2%	73.0%	72.0%	△0.9%	△1.1%	
国内法人預金	(17)	26,450	29,460	30,753	31,484	32,073	＋589	＋1,320	＋4.2%
埼玉県内預金*3	(18)	141,957	150,191	155,121	159,355	165,328	＋5,973	＋10,207	＋6.5%
埼玉県内シェア*2	(19)	44.3%	44.5%	44.7%	45.2%	45.9%	＋0.7%	＋1.1%	

*1. 中小企業＝中小企業等向け貸出金−消費者ローン　*2. 国内銀行勘定ベース
*3. 譲渡性預金を含む　*4. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

本資料中の、将来に関する記述（将来情報）は、次のような要因により重要な変動を受ける可能性があります。

具体的には、本邦における株価水準の変動、政府の方針、法令、実務慣行及び解釈に係る展開及び変更、新たな企業倒産の発生、日本および海外の経済環境の変動、並びにりそなグループのコントロールの及ばない要因などです。

本資料に記載された将来情報は、将来の業績その他の動向について保証するものではなく、また実際の結果と比べて違いが生じる可能性があることにご留意下さい。

想いをつなぐ、未来を形に。Next Action RESONA GROUP